

【児童へのお話】

先週の月曜日から水曜日は、5年生の女神湖移動教室でした。5年生が時間を守ってテキパキと行動する姿を、皆さんに見せたかったです。すばらしかったですよ。そしていよいよ、令和8年度の学校生活が半分を過ぎ、折り返しとなりました。先週の金曜日には、皆さんに通知表が配られましたね。学習や生活の丸に加えて、これまで頑張ってきたこと、これから頑張りたいことを確かめるのが、通知表のよい使い方です。一年の半分となった今年度の落五小での生活をたくさん楽しんで、一日ひとつ、心と身体を成長させていってください。

さて今日は、「10月と日本の神様」についてお話しします。

10月は別名、神様のいない月と書いて、『神無月（かんなづき）』と呼ばれています。なぜこのように呼ばれているかというと、島根県にある出雲大社という、大国主命（おおくにぬしのみこと）という神様を奉っている神社に日本中の神様が集まって、会議をする月だとされているからです。会議では、人々の縁や寿命について、翌年の天候について、お米やお酒の出来具合についてなど、集まった神様によってたくさんの方が話し合われると言われています。ちなみに、神様の集まる出雲大社に奉られている大国主命は、縁結びの御利益があり、いなばの白うさぎを助けてあげた神様としても有名です。また、日本中の神様全員が出雲大社に行ってしまうと、残された人々が困るので、その間、お留守番をしてくれると言われていた神様が、有名な恵比寿様です。10月に困ったことがあったら、「恵比寿様、助けてください」とお願いするとよいですね。

日本には、八百万（やおよろず）の神様がいると言われ、山や川などの自然をはじめ、身の回りの道具など様々なものに神様が宿るとされてきました。だから、古来より日本人々は、自然や身の回りの物を大切にすることで、神様に感謝を伝えてきたのです。日本には昔から伝わる神様のお話や神様にまつわる伝統行事がたくさんありますので、ぜひ調べてみてください。

今日は、「10月と日本の神様」についてお話ししました。これからも、皆で楽しい落五小にしていきたいと思います。

【本講話について】

令和8年度の教育活動が、折り返しとなりました。落五の子どもたちは、まっすぐ素直に成長しています。そして一人一人に、もっともっと高めてあげたい力があります。我々教師は子どもの特徴を見取り、個々に応じた教育内容や方法を講じることができる、教育のプロフェッショナルです。いつでも学校にご相談ください。

今日は、神無月の由来から日本の神様についての講話をしました。落五小の子どもたちには、ものを大切にすること、感謝の気持ちを忘れないこと、そして自律に向けての成長を続けることを頑張してほしいと思っています。ゆっくり、でも一日ひとつ、確実に成長していきたいと思います。